

★ 著 吉 藏 内 田 平 ★

正 坐 法

『安臥法』
の姉妹編

正 坐 と
内 観 の 書

版再・〇一・千 〇五・一價 製上頁百三版六四

内 容 の 一 班

真正の坐法 正坐の意味……足の組み方……脚の開き方……手の置き方……腰の張り方……胸の落し方……首の立て方……頭の支へ方……呼吸の仕度……重心と心……腹腰の強大……人體と食……鼻は息をする……鳩尾と胸……頭を後に引く……丹田の場

正坐と内観 吐き切らぬ息……姿勢と顔……鳩尾と胸……頭を後に引く……丹田の場
下坐……外をみる心……無理なく坐る……坐心を持つ……力はいはるもの……眞坐と感
應……小乗の坐り……形式的な坐り……首の正整……肩を和げる……重心の決め方……
眞坐と正坐……眞空の心……丹田の直観……身體と凝……腹と肺……脚を折る……
無心と自我……内に求めよ……人格の體驗……腰が抜ける……内観と禮拜……一眼二足
三體四力……柔能く剛を制す……正坐と死……鳩尾と腰……無心といふこと……眞坐と禁慾
……内から生かす……土壁石は足……どこも力まぬ……自然に力が入る……膝と和服……
……眞正坐と眞跌坐……垣山の説……腰幹の説……頭の位置を正す……明治天皇の御姿勢……
……武蔵と畫道……五教の統一……禪と皇道……悟りと打坐……頓悟……詩慮と方法……
……直接體驗……大疑問……内からの創造……腹と魂……坐と息……日本精神と佛敎……
……大君への禮拜……眞坐……眞哲學隨想、無門關全評 無門關……趙州の狗子の
の 大行……眞のみそぎ……達磨に鬚の無い話……香嚴樹上の例話……等全四十八章
……一指を立てる話……

内観語録抄 白隠禪師と『假名法語』……某居士に示す……山梨平某居士のこと……
機縁……獨坐……急切の修業……仙人遺丹の秘訣……病家儒家の説
……養生訣……病家須知……眞正坐法の正中姿勢……眞正坐法の呼吸
……養生訓……むすび……附記

圖解と寫眞 眞正坐法の正中姿勢……眞正坐法の足組……眞正坐正面

京 東 替 振 房 雅 山 谷 市 込 牛 京 東 〇 二 ノ 三 町 田

坐 の 研 究

著 吉 藏 内 田 平

本書は日本精神の形態的表現である『坐法』を哲學と科學との両面より解説規定した唯一の書である。従つて單なる強健術的なものになることを避けるとともにまた逆に科學的立場の統一を忘れた遊離的觀念的なものにならぬやう二重の配慮の下に坐禪・靜坐・煉丹の本質を日本的行へと統一した獨創的論述であつて、傍ら『碧嚴錄』全章の譯解をも附して讀者の研鑽に資してゐる。夙に中桐確太郎教授、大川周明博士、大江精志郎、陶山務の諸氏並に東京朝日、中外日報の各紙より絶讃された近來の名著!! 『安臥法』と併せて敢て一讀を薦む。

忠の序説 『忠』の體驗は日本人の血では感じられても言説では容易に把握されなかつたが、茲に始めてこの著者の獨創的哲學によつて的確に表現された日本純粹精神の書。 價一・七〇千一〇

殉國の論理 一人の英雄も一人の指導者も要しない國民本然の動きたる忠の體驗によつて國家そのものにつらなりきつてゐる日本國民の純粹體驗を思想し哲學した。出色の書。 價一・五〇千一〇

眞の哲學 本書は「忠の序説」「殉國の論理」の出発点をなすべき基本的著述である。日本哲學の中核となるべき『まこと』を論考し西歐思想の徹底的批判を行つた熱情の書だ。 價一・五〇千一〇

大君の詩 内實的な感激が奔流を爲して迸り出る大君の詩、事變の詩、世界の詩、日本の詩、殉國の詩、等百篇。一つとして胸を打ち心を清めぬものはない創作的思想詩集! 價一・五〇千一〇

眞療法 近刊・日本醫學の書。 價一・八〇千一〇

大倉精神文化研究所協賛
陸軍大將本庄繁閣下跋題
寫眞數葉入 價一・五〇千一〇

京 東 替 振 房 雅 山 谷 市 込 牛 京 東 〇 二 ノ 三 町 田

60

1606

終